

# ケアプランデータ 連携による ポイント・事例集



藤沢市  
Fujisawa City

1	はじめに	P3
---	------	----

2	主な効果と活用のポイント	P4
---	--------------	----

3	好事例集	P7
---	------	----

株式会社OHANAケア ALOHA工房 様	.....	P8
村岡ケアステーション 居宅介護支援事業所 様	.....	P10
村岡ケアステーション デイサービス 様	.....	P12
藤沢市片瀬地域包括支援センター 様	.....	P14
株式会社ニッショウ 様	.....	P16

4	編集後記	P18
---	------	-----

## はじめに

高齢化の波が押し寄せる中、介護現場では、業務の効率化と質の向上という二つの重要な課題に日々直面されています。藤沢市では、ケアプランデータ連携システムという新たなツールを活用し、煩雑な事務作業から解放され、利用者の方々と向き合う時間を増やす試みが始まっています。この好事例集は、その解決に向け、ケアプランデータ連携システムを導入した藤沢市内の介護事業所の皆様の生の声をまとめたものです。

ここでは、居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、地域包括支援センターの各現場で、システムがどのように活用され、具体的な効果を生み出しているのかを、事例を通して分かりやすくご紹介します。「紙の書類の山からの解放」、「デジタル連携によるスムーズな情報共有」など、現場の皆様の創意工夫が詰まった事例は、きっと皆様の業務改善のヒントとなるはずです。

藤沢市内においても、システム導入当初は様々な課題や不安の声がありました。しかし、丁寧な説明会の実施、個別訪問による働きかけ、そしてICTに不慣れな事業者への手厚いサポートを通じて、着実に導入が進んでいます。この事例集には、その過程で得られた具体的なノウハウや成功の秘訣が凝縮されています。

未来の介護を、より効率的で、温かく、質の高いものへ。この事例集が、その第一歩を踏み出すための一助となれば幸いです。ぜひ、各事例から新たな発見を見つけていただき、それぞれの地域に合った形で、デジタル化への勇気ある一歩を踏み出してください。介護現場の皆様にとって、力強い羅針盤となることを願っています。

## ポータルサイトで情報を発信



<https://sites.google.com/tadakayo.jp/miyazaki/top>

## ケアプランデータ連携システムとは？

ケアプランデータ連携システムは、居宅介護支援事業所と居宅サービス事業所間のケアプランに関する情報連携を、オンラインで効率的に行うための仕組みです。これまで紙ベースで行われていた煩雑なやり取りをデジタル化することで、業務効率化と生産性向上に貢献します。

主な特徴として、計画書や提供票などのデータをドラッグ&ドロップで容易に準備できる「かんたん」さ、記載ミスや書類不備を減らし、介護報酬請求で使用されるセキュリティ方式を採用した「あんしん」さ、そして業務時間を大幅に削減し、費用面でも効果が期待できる「さくげん」効果が挙げられます。

このシステムは、介護現場のDXを推進し、質の高いケアの提供を支援するための重要なツールと言えるでしょう。

## ケアプランデータ連携システムヘルプデスクサポートサイト

ケアプランのやり取りを、紙からデジタルへ。



<https://www.careplan-renkei-support.jp/>

# 主な効果と 活用のポイント

# 主な効果と活用のポイント



本事業を通じてケアプランデータ連携システムを導入した事業所は、提供表や提供実績の受け渡しに要する業務時間が、平均で**22%削減**する事ができました。

特に大きな効果が出た事業所では、**7割以上**の削減効果を確認することが出来ました。

## 提供表と提供実績の受け渡しに要する業務時間の変化（単位：分）

サービス種別	調査件数	月間業務時間（単位：分）		
		導入前	導入後	変化
合計	42	40,874	32,056	-22%
居宅介護支援・地域包括支援センター	17	24,409	18,396	-25%
サービス提供事業所	25	16,465	13,660	-17%

## 特に大きな業務時間の削減に成功した事業所

事業所（サービス種別）	月間業務時間（単位：分）		
	導入前	導入後	変化
A事業所（地域密着型通所介護）	2,700	600	-78%
B事業所（居宅介護支援）	880	210	-76%
C事業所（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）	595	155	-74%
D事業所（居宅介護支援）	1,295	343	-74%
E事業所（地域密着型通所介護）	1,710	465	-73%



# 主な効果と活用のポイント



## 居宅介護支援事業所の場合

### 事務作業の効率化と負担軽減

ケアプランやサービス提供票などの情報を電子的に共有することで、印刷、FAX、手渡しといった手間が大幅に削減され、事務作業の効率化と負担軽減に繋がります。これにより、ケアマネジャーは本来のケアマネジメント業務に集中できる時間が増えます。例えば、手作業での書類作成や配布にかかっていた時間が大幅に削減された事例が報告されています。

### 迅速な情報連携と支援の質の向上

システム導入により、関係機関とのタイムリーな情報共有が可能となり、連携ミスや情報伝達の遅延を防ぎ、より質の高いケアプラン作成とサービス提供に繋がります。医療機関との連携が円滑になることへの期待も述べられています。また、最新の情報に基づいた適切な支援が提供できるようになります。

### 働き方の柔軟性と地域への貢献

事務作業の効率化は、ケアマネジャーの残業時間削減や、より柔軟な働き方を可能にする可能性があります。また、一人当たりの担当件数を増やすことが可能になる場合もあり、地域全体としてのケアマネジメントサービスの提供能力向上に繋がります。ICT活用や事務職員の配置と組み合わせることで、生産性向上と業務効率化が期待できます。

## サービス事業所の場合

### 書類管理の効率化とコスト削減

ケアプランやサービス提供票の電子データでの受け渡しにより、印刷、郵送、FAXなどの手間やコストが削減されます。紙媒体の管理スペースも不要になるため、事業所の運営効率化に貢献します。特に書類の量が多い事業所ほど、効果を実感しやすいとされています。

### 迅速な情報共有と円滑なサービス提供

最新のケアプランや指示書が迅速にデータで共有されるため、サービス提供者はスムーズに業務を開始でき、利用者への適切な支援に繋がります。情報の確認漏れや伝達ミスも防ぎ、より安全で質の高いサービス提供が可能になります。

### 多職種連携の促進と質の高いケア

システムを通じて、ケアマネジャーや他のサービス事業者との情報共有が容易になり、連携がスムーズに進みます。会議資料や報告書などもデータで共有できるため、多職種連携による包括的な支援体制の構築に役立ちます。

## 地域包括支援センターの場合

### 地域連携の強化と情報共有の促進

ケアプランデータ連携システムは、地域内の居宅介護支援事業所や介護サービス事業所との情報共有を促進し、地域全体の連携を強化する基盤となります。地域内の情報が共有されることで、より包括的で質の高い支援体制の構築に貢献します。

### 業務効率化による相談支援体制の強化

紙ベースでの情報管理や連携業務から解放されることで、地域包括支援センターの職員は、相談支援、介護予防、地域ケア会議といった本来の業務に注力できるようになります。事務作業時間の削減により、地域住民への支援活動をより充実させることが可能になります。

### 地域包括ケアシステムの推進と質の向上

地域内の様々な事業所との連携が強化されることで、地域包括ケアシステムの構築と推進に貢献します。地域のニーズに合わせた効果的な支援体制を構築し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように支援することができます。

# 好事例集



## 事業所概要

- サービス種別：地域密着型通所介護
- 所在地：藤沢市川名
- 従業員：5名
- 利用定員：20名
- 取材協力者：小嶋佳世様（生活相談員）

## インタビュー

本日は、ケアプランデータ連携システムを導入されているALOHA工房の小嶋様にお話を伺います。

まず、**貴事業所の概要**について簡単にご説明いただけますでしょうか？

取材担当 蜂谷  
(ケアマネ)

小嶋様

はい。株式会社OHANA（オハナ）ケアという会社で、事業所名としてはALOHA工房という半日型のリハビリデイサービスを行っております。スタッフは介護士を中心に5名ほど在籍しております。

今回、藤沢市のケアプランデータ連携による活用促進モデル地域づくり事業に参加された**きっかけ**を教えてくださいませんか？



蜂谷



小嶋様

元々、介護ソフトを選ぶ際に、連携システムが利用できるかケアマネージャーの方に尋ねられたことがきっかけで関心を持ちました。  
その後、別のソフトを導入しましたが、いずれは連携システムを活用したいと考えておりました。そんな折、藤沢市さんからお声がけいただき、良いタイミングだと感じてすぐに参加を決めました。

ケアプランデータ連携システムを導入する際に**課題**となった点はございましたか？



蜂谷



小嶋様

申し込みはしたものの、内容を十分に把握できていない状況で、特に**国保連合会のIDのような番号**が分からず苦労しました。  
社内で管理している情報を私が代わりに調べたり、タダカヨさんにお手伝いいただいたりして、ようやく導入できたという状況でした。普段使わないIDだったため、知らなかったです。



国保連合会の電子請求書IDとパスワードは、使う機会が無いので、分かりませんよね、、、。連携システムの導入によって、**具体的な成果**はありましたか？



蜂谷



小嶋様

約60名のご利用者情報が新たにデータ連携できるようになり、**ご利用者全体の半数以上、6割弱が連携**できるようになりました。多くの人数と連携できるようになったことが成果としては大きいです。

**6割**もデータ連携できるようになったのは大きいですね！！



蜂谷



小嶋様

はい。導入前は、居宅や包括から提供表をFAXや郵便で受け取り、システムへの入力、内容確認を行っていました。しかし、導入後は、CSVデータで提供表を受け取れるようになったため、**入力間違いの確認作業**が基本的に**不要**になりました。



小嶋様

また、データ連携できる割合が増えたことで、以前はばらばらに届いていた**提供表**が、比較的**まとまった時期にデータで入ってくる**ようになったため、取り込み作業の時間を確保しやすくなったというメリットも感じています。**見えない業務効率化**だと思います。

様々な導入効果が生まれてますね！  
最後に、今後の連携システムに対する**展望**や**期待すること**はありますか？



蜂谷



小嶋様

現状は未だFAXや郵便でのやり取りも残っており、二重で対応している状況です。システムを活用されていない事業所が周囲に3分の1ぐらいはあるので、そちらとのデータ連携が実現すれば、業務効率が大幅に向上し、時間短縮につながると思います。  
今後は、紙媒体でのやり取りが減り、**連携システムがさらに普及**していくことを期待しています。

地域でデータ連携システムがさらに広まるといいですね！  
本日は貴重なお話ありがとうございました。



蜂谷



## 事業所概要

- サービス種別：居宅介護支援
- 所在地：藤沢市渡内
- 従業員：4名（ケアマネジャー）
- 利用者数：160名
- 取材協力者：板垣 直人 様（管理者）

## インタビュー

本日は、ケアプランデータ連携システムを導入されている村岡ケアステーション居宅介護支援事業所の板垣様にお話を伺います。

まず、**貴事業所の概要**について簡単にご説明いただけますでしょうか？

取材担当 蜂谷  
(ケアマネ)

板垣様

村岡ケアステーション居宅介護支援事業所では、ケアマネジャーが4名在籍しており、男性3名、女性1名と男性が多いのが特徴です。利用者様の担当人数は、ケアマネジャー1人あたり大体40名前後で、4名で約160名のご利用者様を支援させていただいております。

今回、藤沢市のケアプランデータ連携による活用促進モデル地域づくり事業に参加された**きっかけ**を教えてくださいませんか？



蜂谷



板垣様

藤沢市の方からお話をいただき、参加を検討いたしました。正直なところ、導入すべきかどうか迷いもありました。現状でも業務は回っており、すぐに効果が出るとは思えませんでした。事業所の管理者として、このままで良いのかという危機感がありました。従業員自身も成長していく必要がありますし、時代の流れに取り残されてしまうのではないかとこの思いもあり、**思い切ってまずはやってみよう**と決意いたしました。

素晴らしい決断ですね！！参加に迷われている事業者もある中で、将来を見据えて一歩踏み出されたのですね！

実際にケアプランデータ連携システムを導入する際に**課題**となった点はございましたか？



蜂谷



板垣様

データ連携を始めるまでの準備段階で、意外と手間がかかるものだと感じました。導入の手順書を見ながら進めたのですが、ダウンロードやインストール、証明書の発行といった作業で迷う部分もありました。ただ、手順書を丁寧に確認することで、なんとか解決することができました。

また、**IDやパスワードの設定**に関しても、どうしても**戸惑う職員**がおりました。



導入の初期段階では、そうした設定周りで苦労されるケースは少なくないようですね、、、。どのようにしてその課題を**解決**されましたか？



蜂谷



板垣様

手順書を再度丁寧に説明したり、実際に操作を見せたりしながら、一つ一つクリアしていきました。フローチャートに沿って進めることで、最終的には全員が導入を完了することができました。

丁寧にサポートされたのですね。導入後、約2ヶ月が経過したとのことですが、具体的な**成果**はいかがでしょうか？



蜂谷



板垣様

**提供票の発送業務**において、明確な変化がありました。以前は、毎月100件近くの提供票を郵便で発送しておりましたが、現在では郵便での発送が**85%程度にまで減少**しました。約15%のご利用者様の提供票が、連携システムを通じて事業所へ送付できている状況です。

今後ますます連携システムへ移行が進めば、郵便代の大幅なコスト削減に繋がりそうですね。今後の連携システムに対する**展望や期待**することはございますか？



蜂谷



板垣様

今回のデータ連携システムの導入は、当事業所にとって良いきっかけになったと感じています。当事業所のケアマネージャーも年齢層が上がってきており、新しいことに抵抗を感じる者もいましたが、実際にやってみると**意外とスムーズ**に進められています。



板垣様

今後の展望としては、職員の**意識改革**に繋がればと考えています。新しい仕事のやり方を覚えることで、意識が変わり、将来的には人間としての成長にも繋がるのではないかと期待しています。また、ICT化や生産性向上という面でも、今回の経験を活かして様々なことに取り組んでいきたいと考えております。連携システム自体も、操作が複雑ではないため、**ICTに苦手意識のある職員にとっても良い入り口**になるのではないかと感じています。

村岡ケアステーション様が積極的に新しいシステムを取り入れ、業務改善と職員の成長に繋げようとされている姿勢が大変印象的でした。本日はありがとうございました。



蜂谷



村岡ケアステーション

## 事業所概要

- サービス種別：通所介護
- 所在地：藤沢市渡内
- 従業員：10名
- 定員：30名
- 取材協力者：廣岡 雄二 様（管理者）

## インタビュー

本日は、ケアプランデータ連携システムを導入されている村岡ケアステーション通所介護事業所の廣岡様にお話を伺います。

まず、**貴事業所の概要**について簡単にご説明いただけますでしょうか？

取材担当 蜂谷  
(ケアマネ)

廣岡様

村岡ケアステーションのデイサービスは、定員30名の1日型のデイサービスです。週1回から週5、6回ご利用される方もおり、ご自宅に戻られても安定した生活を送れるよう、またご家族の介護負担軽減も目的として事業を行っています。

今回、藤沢市のケアプランデータ連携による活用促進モデル地域づくり事業に参加された**きっかけ**を教えてくださいませんか？



蜂谷



廣岡様

一番の理由は、**紙媒体のデータが溜まってしまふことによる保管の難しさ**です。年間の利用人数や事業所数を考えると、保管場所の確保が課題となっていました。また、**郵送やFAXでのやり取りによる手間やコスト**も課題でした。郵便料金の値上がりも大きく影響しており、データ上で保存できるようになれば、紙の削減による効率化や、郵送代、FAX用紙代などのコスト削減につながると考え、参加させていただきました。

実際にケアプランデータ連携システムを導入する際に**課題**となった点はございましたか？



蜂谷



廣岡様

まず、導入している事業所がまだ少なかったため、**実際に連携できる事業者が限られていた**ことです。送りたいと思っても、相手の事業所がシステムを導入していなければ連携できません。幸い、**同じ法人内の居宅介護支援事業所と一緒に導入してくれた**ので、まずはそこから連携を開始することができました。

もし法人内に連携できる事業所がなければ、なかなか始められなかったと思います。



法人内に複数の事業所があることは、連携を進める上で大きなメリットだったのですね。現在、連携システムでの**提供票のやり取り**は、どのくらい進んでいますか？



蜂谷



廣岡様

全体で言うと、**3割から4割**程度がデータ連携でやり取りできています。そのうち、完全にデータのみでやり取りしているのが2割、紙媒体と併用しているのが1割という状況です。やはり、最初はデータだけだと不安があるので、併用している事業所が多いです。

既に3割から4割が移行されたのですね！順調に進んでいると言えそうですね。



蜂谷



廣岡様

はい。特に、もともと当法人の別の事業所をご利用されている方が多かったため、その方々の提供票がデータで見られるようになったことで、**事務作業の効率化を実感**しています。これが5割、6割と増えていけば、さらに効果が出てくると思います。

今後ますます連携システムへ移行していくことが楽しみです！今後の連携システムに対する**展望や期待**することはございますか？



蜂谷



廣岡様

まず、先ほども申しあげましたが、データ連携を行っている事業所が増えるほど、ペーパーレス化が進み、業務の効率化につながると期待しています。



廣岡様

もう一つは、現在使用している介護ソフトが各事業所によって異なるため、**それぞれのソフトに対応したマニュアル**のようなものが整備されると、どの事業所でもよりスムーズに連携できるようになるのではないかと感じています。

現在、当法人ではワイズマンというソフトを使用しており、法人内の事業所間では連携の方法が分かってきましたが、外部の異なるソフトを使用している事業所との連携方法について聞かれた際に、明確に答えることができないという不安があります。

そうした点が明確になれば、このデータ連携システムがさらに普及するのではないかと考えています。

本日は貴重なお話しありがとうございました。



蜂谷



## 事業所概要

- サービス種別：地域包括支援センター
- 所在地：藤沢市片瀬
- 取材協力者：長尾 敏明 様（管理者）

## インタビュー

本日は、ケアプランデータ連携システムを導入されている藤沢市片瀬地域包括支援センターの長尾様にお話を伺います。

まず、**貴事業所の概要**について簡単にご説明いただけますでしょうか？

取材担当 蜂谷  
(ケアマネ)

長尾様

当事業所は包括支援センターとして、主に介護予防ケアマネジメントと包括的支援事業を行っております。片瀬地域は後期高齢化率が高く、要介護認定を受けている方が多いです。そのため総合相談・包括的支援事業とケアマネジメント業務の両方を担っています。

今回、藤沢市のケアプランデータ連携による活用促進モデル地域づくり事業に参加された**きっかけ**を教えてくださいませんか？



蜂谷



長尾様

まず、**紙ベースでのやり取りを減らしていきたい**という思いがありました。計画書への押印省略化や、提供票の交付方法など、ケアプランもデータで事業所と共有し、帳票類を電子化できればと考えておりました。

また、連携システムを使えば、どこから提供票が届いていないのかといった状況も、データで一覧表示されれば、紙で確認するよりも容易に把握できると考えました。

ケアプランデータ連携システムを導入する際に**課題**となった点はございましたか？



蜂谷



長尾様

私の使用しているパソコンに連携システムをインストールする必要があったのですが、**送信履歴や受信履歴が他のパソコンと連動しない**という点が課題です。

そのため、現状では特定の担当者が提供票のCSVデータを作成し、連携システムで送受信を行う方法をとっており、業務の集中を調整しようとしています。



送受信履歴は、複数のPCで見れるほうが助かりますよね、、、。  
連携システムの導入によって、**具体的な成果**はありましたか？



蜂谷



長尾様

はい。まだ本格運用を開始したばかりで、提供票については紙媒体との併用を行っています。データ連携でやり取りしている事業所数は、試験的に開始した2月から現在にかけて**3箇所から10箇所**に増えました。

1か月で7か所も増えたんですね！！



蜂谷



長尾様

はい。しかし、当法人が関わる約80~90の事業所のうち、未だ1割程度です。これから実績データが戻ってくる段階で、連携の効果を具体的に検証していく予定です。まずはこの10箇所とスムーズに連携できればと思っています。

着実に前に進まれているのが素晴らしいですね。  
最後に、今後の連携システムに対する**展望**や**期待すること**はありますか？



蜂谷



長尾様

将来的には、**紙媒体との併用をなくし、完全データ化を目指したい**と考えています。まずはシステム運用に慣れている事業所から、提供票のみのデータ連携を進めていくのも一つの方法だと考えています。  
また、機能面では、連携システム上で、送信したデータが相手に届いているか、確認されたかどうかのステータスが可視化されると、より安心して利用できると思います。



長尾様

連携システムの導入はまだ始まったばかりで、**実際に運用してみないと分からないことも多い**と感じています。多くの事業所に参加して頂き、実際に活用してもらうことが、このシステム普及のためには重要だと考えています。

国保中央会様も様々なアップデートを予定しているようなので期待して待ちたいですね！  
本日は貴重なお話ありがとうございました。



蜂谷



## 事業所概要

- サービス種別：福祉用具貸与
- 所在地：藤沢市
- 取材協力者：  
業務推進部 部長 合田 実様  
業務推進部 シニアチーフ 國武 さつき様

## インタビュー

本日は、ケアプランデータ連携システムにご参加いただいた御社における導入の経緯や効果について詳しくお伺いし、まず、**御社の概要**について合田様からお聞かせいただけますでしょうか？

次田  
(居宅ケアマネ)

合田様

株式会社ニッショウは湘南地域で事業を展開し、福祉用具販売から運動系デイサービス、居宅介護支援まで幅広く提供しています。地域内の連携を強化し、茅ヶ崎市にはショールームを開設。デイサービスでは介護予防に特化した運動を提供し、利用者の健康維持を支援しています。

デイサービスは湘南エリアに5事業所展開されているとのことですが、ケアプランデータ連携システムはどのように**導入**されたのでしょうか？



次田



合田様

ケアプランデータ連携は、当初国保連との連携に課題を感じつつも、ケアマネジャーさんとの連携強化を目的に導入し、3事業所で活用しています。藤沢市・茅ヶ崎市内での導入が少ない状況下、早期登録によりケアマネジャーさんからの要望に迅速に対応できる体制を構築しました。

導入当初、**課題**などはございましたでしょうか？



次田



國武様

課題は、**導入事業所の少なさ**と、システム間の**互換性**です。CSVファイル出力後のデータ不整合や、提供表の入力内容と実際の貸し出し数の差異など、フォーマット上の問題も発生。その都度、ソフトベンダーへの確認対応が必要です。



次田

実際にシステムを利用して、お使いの介護ソフトからのデータ連携はいかがでしょうか？



國武様

ケアプランデータはCSVで簡単に出力でき、連携アプリへのアップロードもドラッグ&ドロップで容易です。「ご不明な点ご連絡ください」といったメッセージ添付機能も便利です。実績以外では、居宅介護支援事業所からPDF資料を受け取ることもあります。



次田

合田様は、ケアプランデータ連携が営業ツールとしても活用できる可能性について言及されていましたが、具体的なアイデアはございますか？



合田様

電話やFAX以外でケアマネジャーさんと繋がる手段は課題と感じておりましたので、テキストでのやり取りができることは非常に良いと考えています。例えば、新しい福祉用具の情報などをメールでお知らせしたり、YouTubeの紹介動画へのリンクを添えたりといった活用方法が考えられます。



次田

福祉用具の場合、納品や回収、商品変更など、こまめな情報をボタン一つでケアマネジャーさんに伝えられるようになることを期待しています。これにより、当事業所とケアマネジャーさんの事務作業が大幅に軽減されるのではないかと感じています。



國武様

ケアプランデータ連携によって、これまで印刷・FAXで行っていた業務が、介護ソフトからボタン一つでデータ連携できるようになることで、**事務作業が大幅に削減される**と期待しています。事務作業は**8割ほど削減できる**のではないかと考えています。



次田

最後に、ケアプランデータ連携を含め、地域が連携していく上で期待することなどございましたら、一言ずついただけますでしょうか？



合田様

はい。人と人の連携を大切にしつつ、その裏にある膨大な事務作業をいかに少なくしていくかが重要だと考えています。データ連携のような新しい取り組みに期待し、共に育てていきたいです。



國武様

はい。事務作業の負担が軽減されることで、ケアマネジャーさんとの連携がよりスムーズになり、利用者様へのより質の高いサービス提供に繋がることを期待しています。

## 編集後記



この度、「ケアプランデータ連携による活用促進モデル地域づくり事業」の取り組みをまとめた【藤沢市好事例集】を発行する運びとなりました。本事業は、市内介護サービス事業所における生産性向上と業務効率化を図り、ひいては地域全体の介護サービスの質の向上を目指す重要な取り組みです。

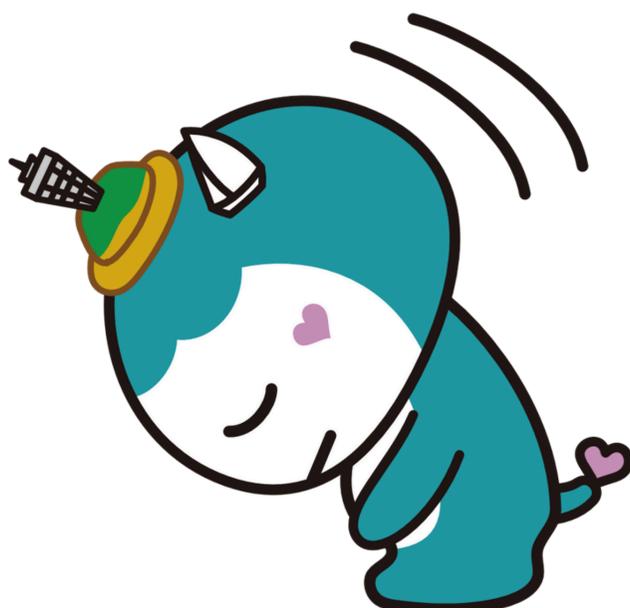
本事例集では、モデル地域として先進的にケアプランデータ連携システムを導入にご協力いただいた4つの事業所様の貴重な事例をご紹介します。具体的には、半日型リハビリデイサービスのALOHA工房様、地域包括支援センターである藤沢市片瀬地域包括支援センター様、そして居宅介護支援事業所とデイサービスを運営する村岡ケアステーション様にご協力いただきました。

各事業所様の事例からは、紙媒体での煩雑な情報共有からの解放、迅速な情報連携による支援の質の向上、そして事務作業の効率化による負担軽減といった、ケアプランデータ連携システムの導入効果が具体的に示されています。導入時には、システム設定や関係機関との連携といった課題も見受けられましたが、各事業所様の積極的な取り組みと、丁寧な導入支援によって着実に成果を上げられていることが伺えます。

特に、提供票のデータ連携による印刷・郵送コストの削減や、情報伝達の迅速化による利用者へのよりスムーズなサービス提供は、今後の市内全域へのシステム普及に向けて大きな期待を持てる成果です。また、システム導入を契機とした職員のICT活用能力の向上や意識改革といった、副次的な効果も確認できました。

今回の事例集が、市内外の介護サービス事業所の皆様にとって、ケアプランデータ連携システムの導入を検討される際の良い手引きとなり、地域におけるより質の高い介護サービスの提供に繋がる一助となれば幸いです。

ご多忙の中、貴重な事例をご提供いただいたALOHA工房様、藤沢市片瀬地域包括支援センター様、村岡ケアステーション様の皆様、株式会社ニッショウ様、そして本事業の推進にご尽力いただいた関係各位に深く感謝申し上げます。今後も本事業を通して得られた知見を活かし、地域包括ケアシステムの更なる推進に努めてまいります。



介護をつなぐ。心がつながる。



ケアプラン  
データ連携システム

2025年3月発行



藤沢市  
Fujisawa City